

2022年度 専門学校早稲田国際ビジネスカレッジ 事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(担当者：教頭 宮内健太郎)

●在籍者数 (2023年5月1日現在)

(単位：名)

課程	工業		文化教養			計
	国際情報	国際教養	デザイン総合		国際コミュニケーション	
			デザイン	テキスタイルデザイン		
入学定員	30	65	20	20	20	155
収容定員	60	130	40	40	40	310
1年	34	70	7	13	3	127
2年	16	52	0	8	0	76
合計	50	122	7	21	3	203

※編入学での受入数は2年生に計上 (デザイン総合学科3名、国際教養学科19名、国際情報学科3名、計25名)

※デザイン総合学科にデザインコース新設、国際コミュニケーション学科にe-Sportsコース新設

I. 2022年度の事業概要

事業計画項目	達成度
1 【国際教養学科・国際情報学科】 ・日本語学校向けに大学進学セミナーを開催。 【デザイン総合学科】 テキスタイルデザイン協会にて学校の広報活動を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・7月1日に日本語教育フォーラム「がんばろう日本語教育」を開催。日本語教育機関から25校35名の参加。100%達成。 ・テキスタイル教育に関するゲストスピーカーとして春日学科長が教育活動やECサイト「志」の広報を実施。100%達成。 ・資料請求数は346を達成(昨対比+45)。
2 【国際教養学科・国際情報学科】 新教材を活用したキャリア教育の実践。 【デザイン総合学科】 ・レザークラフト、アクセサリ実習の実践。 ・業界の活躍するデザイナーを招いての特別講座の開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の教材『エナジード』を活用した教育を実践。80%達成。 ・レザークラフト、アクセサリ実習の講義を通してトータルコーディネーター・立体感覚を育成。80%達成。 ・イッセイミヤケ 金森七海デザイナー 特別講座を実施。100%達成。
3 【国際教養学科・国際情報学科】 ・東京大学学部または東京大学大学院に合格者を輩出	<ul style="list-style-type: none"> ・2年連続で東京大学大学院に合格(1名) 100%達成。 ・その他、国際基督教大学に初の3名合格、うち2名は4年間学費全額免除のICU Peace Bell 奨学金対象者に選出。

II. 2022年度の取り組み

1. 2023年度入学生募集活動 <入試状況>

学科	受験者数	※入学者数
デザイン総合	23名	20名
国際コミュニケーション	4名	3名
国際教養	107名	89名
国際情報	57名	37名

<募集活動における課題と改善策>

【国際教養学科・国際情報学科】

- ・オープンキャンパスや学校説明会参加者に対する個別相談会の時間を増やした結果、出願者数は昨年度を16名上回った。次年度は編入生の入学者数のさらなる増加につながるよう、日本語学校訪問でのトークを工夫していく。
- ・新入生の78%が入学のきっかけとして「友人からの紹介」を挙げているため、授業力を強化し、外部イベントを増やして学生の満足度を上げることで次年度募集につなげる。また、難関大学の進学説明会を多く実施し、他校との差別化を図った留学生教育を実現していく。

【デザイン総合学科】

- ・オープンキャンパス、学校説明会など、来校する参加者が入学したくなるようなイベント計画を立てる。また、来校者の47%がWEBからの申し込みであることからSNSの告知回数を増やすとともに、HPの充実を図り、広報体制の改革を行う。
- ・新設したデザインコースの認知度を向上させるため、国際教養・国際情報学科のノウハウを生かした広報活動により募集活動改善を行うとともに、口コミでの出願者数増加を図る。

【国際コミュニケーション学科】

- ・e-sportsコースの認知度の向上のため、今年度はパンフ作成をより早く行い、ガイダンス参加への参加回数を増やしていく。さらに、e-sportsコースの知名度を向上させるようなWEB広報戦略と学校訪問による認知度戦略を並行して行うことで、高校3年生に的確にアプローチする。

2. 2022年度に実施した新たな事業内容の結果と2023年度への課題

項目	事業内容	2023年度への課題
(1) 外部イベント参加	日本現代工芸美術展や地域イベント「染めの小道」への出展	これまで参加したコンクール、地域イベントの他にデザインフェスタなどの出展を増やし、知名度と認知度の向上を図る。
(2) デザインコース新設	美術大学、美術大学大学院合格対策	本校独自の実習主体のカリキュラムにより、短期間で技術が上達できる教育を行う。
(3) 日本語教育機関との連携強化	日本語教育機関の先生方を招き、「日本語教育フォーラム」を実施	日本語学校教員が留学生教育を考える上で必要な情報が取得でき、また人材交流ができるような環境を本校主催のフォーラムで実現する。
(4) e-sports コース新設	国際コミュニケーション学科 e-sports コースを新設し、業界で活躍できる人材育成を図る	本校ではeスポーツの大会出場や交流戦を通して認知度を向上させるほか、資格取得など他校とは異なるカリキュラムによって差別化を図ることでブランディングを行う。

以上